

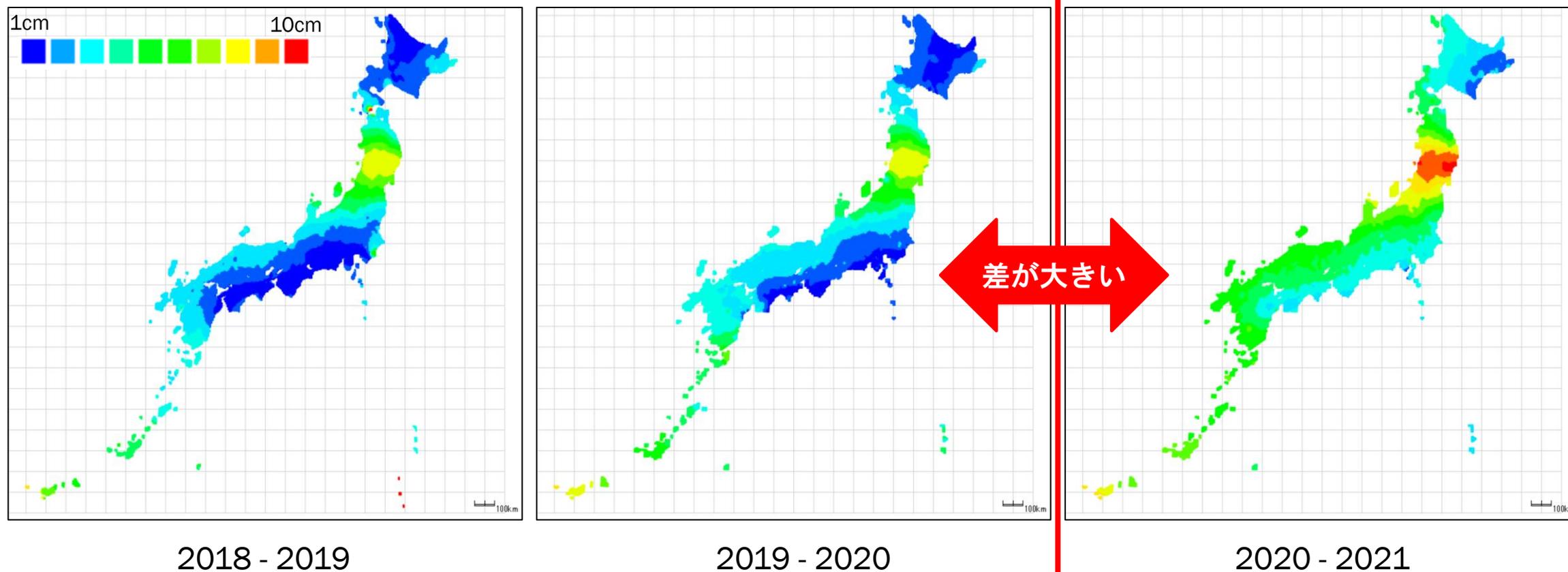


セミ・ダイナミック補正 時空間変位パラメータに関して

アイサンテクノロジー株式会社

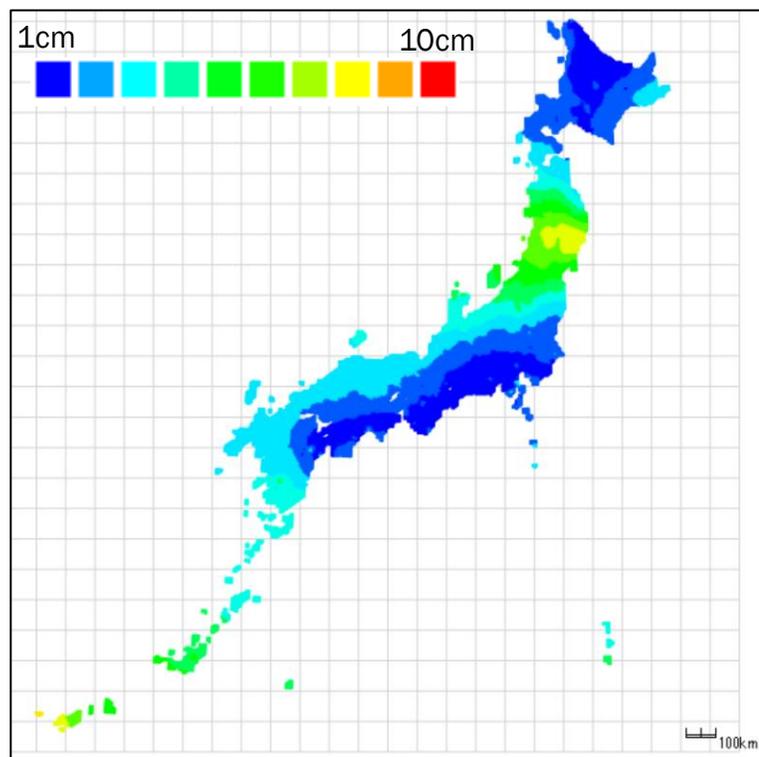
時空間変位パラメータの年間差分①

下図は、地殻変動補正量の年間の差を比較したものである。

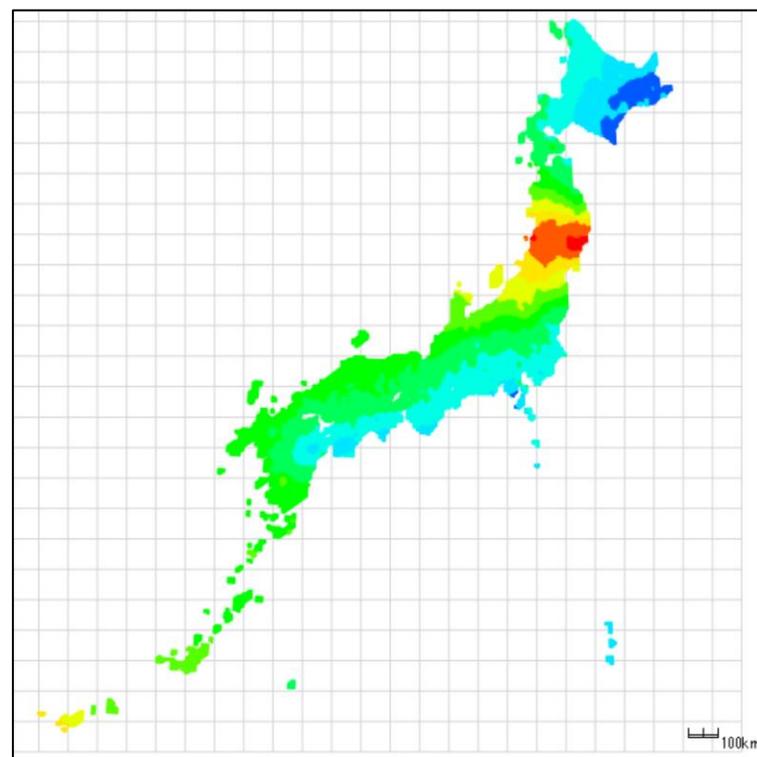


時空間変位パラメータの年間差分②

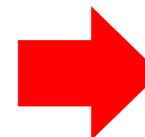
下図は、POS2JGD（前身は3か月版）のデータで試したものである。



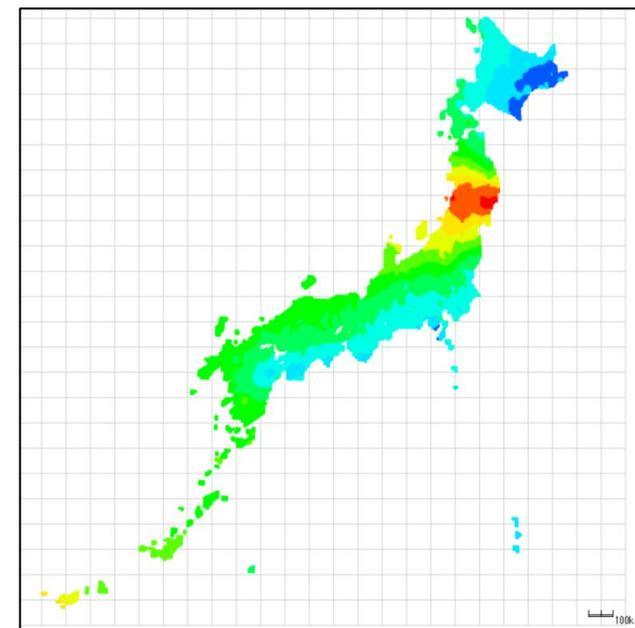
2020 - 2021(3/1-5/31)
geonetF3(ITRF2005)版



2020 - 2021(4/1-5/31)
ITRF2014版



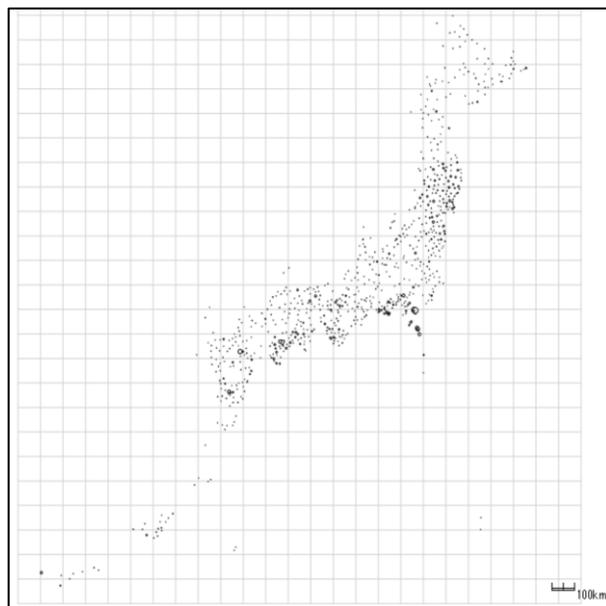
SemiDyna2021はPOS2JGDの
ITRF2014版と酷似。



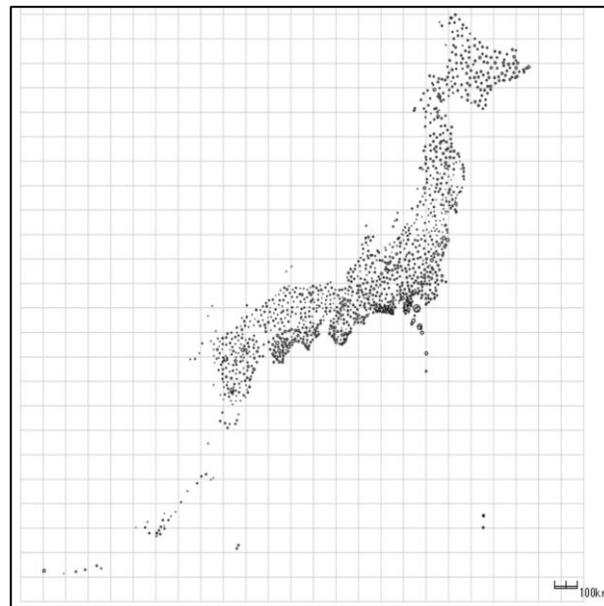
SemiDyna2021

F5解を時空間変位パラメータで補正したらどうなるのか？

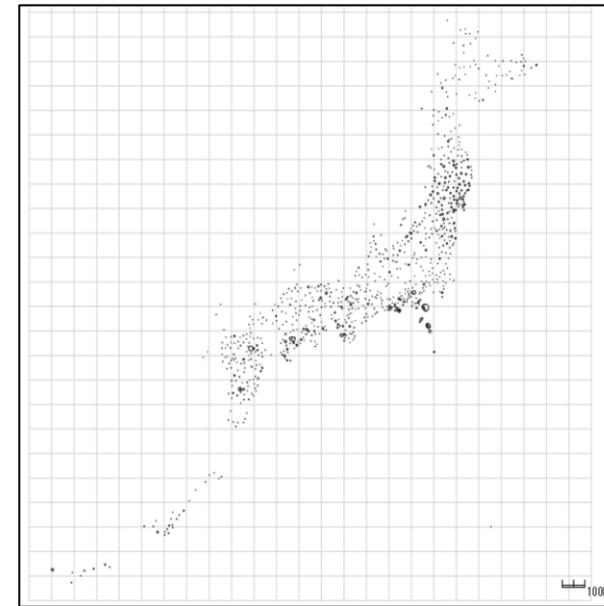
下図は、日々の座標値の補正後の値と基準点成果との差を計算してみたものである。



F3解 + SemiDyna2020



F3解 + SemiDyna2021



F5解 + SemiDyna2021

※色が濃い方が差が大きい

- F3解に時空間変位パラメータ(SemiDyna2021)で補正を掛けると前年度と比較して全国的に差が大きくなる。
- F5解に時空間変位パラメータで補正を掛けるとF3解に前年度パラメータで補正を掛けた時と同様の差になる（少し大きい。）。

まとめ

- 2018-2019、2019-2020の差分とくらべて、2020-2021の差分が大きくなっている。
→ 今までの傾向と異なるので、パラメータの生成や入力データに何か変更があったと考えられる。
- POS2JGDのITRF2014版とSemiDyna2021は酷似している。
→ 変更点はITRF2014準拠（F5解対応）？
- F3解にSemiDyna2021を補正したときより、F5解の方が基準点成果との差は小さい。
→ やはりITRF2014準拠（F5解対応）？

国土地理院に問い合わせたところ、「時空間変位パラメータ」の名称変更に伴い、従来算出にF3解を用いていましたが、F5解に変更したそうです。